

地震が発生するメカニズム

**世界** 界でも有数の地震大国といわれる日本。日本が地震大国といわれる理由には、日本列島周辺の地理が大きく関係しています。地球の表面はプレートという巨大な岩盤が集まり形成されています。日本列島の周辺には、「大陸プレート」（北米プレート・ユーラシアプレート）と、「海洋プレート」（太平洋プレート・フィリピン海プレート）という4つのプレートがあります。それぞれのプレートは1年あたり数センチの速度で動いており、そのプレートの動きが地震を引き起こすため、日本列島周辺では地震が多く発生します。



▲地震がおこる仕組み  
出典：地震調査研究推進本部  
(<https://www.static.jishin.go.jp/resource/figure/figure003004.jpg>)

# 災害への備え

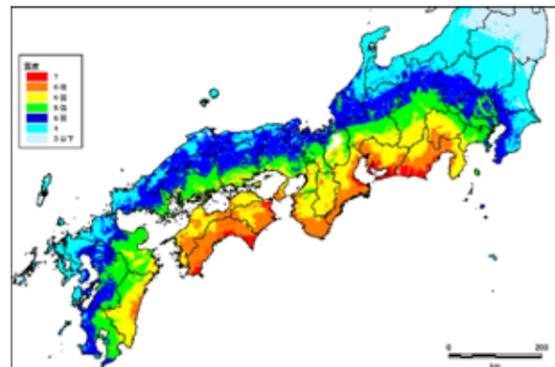
Preparing for Disasters

## 特集

発生が危惧される大地震

**令** 和6年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県の能登半島を中心に甚大な被害をもたらし、全国各地でも揺れを観測するなど、日本中に大きな影響を与えました。また昨年8月には宮崎県日向灘で発生した地震により、南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震が起こる可能性が平時より高まっているとし、「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されました。南海トラフ地震は、静岡県駿河湾から宮崎県の日向灘にかけてのプレートを震源域として、約100年〜150年の間隔で繰り返し発生している大地震のことで、前回の発生し

から約80年が経過しています。政府の地震調査委員会は今年1月、南海トラフ地震の30年以内の発生確率をこれまでの「70%〜80%」から「80%程度」に見直しました。また内閣府が3月に公表した最新の被害想定報告書によると、南海トラフ地震が発生すると、最悪の場合、全国で死者約29万8千人、建物の全壊・焼失は235万棟にのぼると想定されています。中でも深刻なのは津波による被害で、全国各地の沿岸部では、地震発生後5分以内に津波が押し寄せる可能性があるとされています。さらに、地震が発生した後、時間差で大きな地震が再度発生する可能性も指摘されています（後発地震）。孤野町では、南海トラフ地震が発生すると、大部分が震度5強〜6弱の揺れに襲われると予測されています。



▲南海トラフ地震の震度分布図  
出典：令和7年3月31日中央防災会議「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ報告書説明資料」から部分抜粋

す。一方で、個人でも取り組める対策により被害を大幅に軽減することが見込まれるため、日頃からの備えが重要です。

地震への備え

**皆** さんはもし今大地震が起こったら、すぐに適切な行動ができませんか。日頃から災害に備えておくことが、あなた自身や、大切な人の命を守ることに繋がります。ここからは各家庭で行っていただきたい地震への備えを紹介いたします。最初にしていたいただきたいことは、非常持出品・備蓄品の確認です。最低でも、非常食や飲料水などの食料品、懐中電灯、モバイルバッテリー、救急用品などを用意しておきましょう。家族の人数や年齢、持病の有無によって必要な物は異なります。乳幼児や高齢者がいる家庭では、紙おむつや介護用品なども忘れずに備えてくだ

さい。次に、家具の転倒防止対策を行いましょう。大きな地震では、家具の転倒や落下によるけがが多く報告されています。特に、寝室や子ども部屋にあるタンス、本棚、テレビなどの大きな家具は、壁にしっかりと金具等で固定して、場合によっては家具のレイアウトの見直しを行ってください。さらに、家族で避難場所と連絡手段を確認しておくことも重要です。災害発生時には電話がつながりにくくなる場合がありますので、災害用伝言ダイヤル（171）やSNSなど、複数の連絡手段を決めておくことで安心です。

家具の転倒防止対策

揺れにより、固定していない家具が移動したり、倒れたりすることがあります。家具が転倒すると、下敷きになり負傷したり、避難する際の障壁になるリスクがあります。金具で家具を固定したり、寝室やドア付近に家具を置かないよう配置を見直すことが大切です。

持出品・備蓄品の確認

食料品は最低でも3日分、できれば1週間分程度用意しましょう。災害時に必要な食料品や消耗品を多めに買い置きし、日常的に消費、買い足ししながら備蓄する「ローリングストック」も効果的な方法です。

INFORMATION

災害用伝言ダイヤル 171

録音  
171をダイヤルし、音声ガイダンスに従い操作

伝言を録音  
相手の電話番号をダイヤル

再生  
録音された伝言が再生

災害用伝言板 web171

▲web171  
災害時に電話ではなく、インターネットで利用できる伝言板です。文字で安否情報を登録・確認できます。

INTERVIEW

石川県穴水町に1年間派遣

ふくしまりょうすけ 環境課 福島良介



穴水町では主に被災家屋等の公費解体の受付事務に従事し、全国から同じように派遣されてきた職員とともに、復興に向けて業務に取り組んでいました。現地では被災された住民の方と直接やり取りする機会も多く、住民との距離の近さが印象に残っています。その中で、普段当たり前にある飲食店やスーパー、コンビニなどのお店が被災直後は営業しておらず、食料品の確保に苦労した、という話を伺いました。その話を通して、改めて平日頃から災害へ備えておくことの重要性を強く感じました。災害はいつ起こるか分かりません。皆さんも改めて自宅の備蓄品等を確認してみてください。

①能登半島地震によって被災した家屋を解体・撤去している様子。②解体に伴い発生したガレキなどが集積されている仮置き場。③解体後に整地された土地。④崩壊した道路。各地で道路の破損が発生し、物資の輸送に大きな影響を与えた。